

最澄ゆかり「餅茶」を大津・坂本産の茶葉で再現、日吉大社に奉納

2023年10月22日 6:20

松村和彦



唐風茶宴で餅茶を煎じるプロジェクト発起人の堀井さん（中央）＝大津市坂本5丁目・日吉大社



プロジェクトが再現した「餅茶」。茶葉を蒸した後にすりつぶして乾燥させてある

比叡山延暦寺の開祖・最澄が中国から茶の種子を持ち帰った約1200年前の「餅茶（へいちや）」を市民グループが大津市坂本産の茶葉で再現し、21日、日吉大社（同市坂本5丁目）に奉納した。茶会も開かれ、訪れた参拝者らにふるまわれた。

中国茶や歴史の研究者や、坂本にある延暦寺の里坊の関係者らで2020年に結成した「日本最古のお茶伝承プロジェクト」が実施した。坂本には最澄が唐から持ち帰った茶の種を植えたとされる「日吉茶園」がある。同茶園や近隣の里坊に植わる茶の木から葉を収穫し、唐の時代の製茶法で蒸した茶葉をすりつぶして固めて作る。「坂本餅茶」と名付け、茶会を昨年初めて開催した。

この日は日吉大社境内で、プロジェクト発起人の堀井美香さん（57）＝石山寺2丁目＝が、砕いた餅茶を、塩を加えたお湯で煮出した。参加者は「去年よりもおいしい」「塩でお茶の甘みが引き立つ」「時間がゆっくり流れていた」などと話し、古式の茶を楽しんでいた。

境内の別の場所では、茶摘みから製茶までの過程を紹介する写真パネルも展示した。

地域

スタンダードプラン記事

中国・唐代の「餅茶」再現 大津・坂本の日吉大社でイベント

2022年10月23日 7:00



プロジェクト発起人の堀井さん（左端）が坂本餅茶を煎じた唐風茶会＝大津市坂本5丁目・日吉大社

蒸した茶葉をすりつぶして固めた中国・唐代の「餅茶（へいちゃ）」を大津市坂本産の茶葉で再現した市民プロジェクトが22日、坂本餅茶と名付けて同市坂本5丁目の日吉大社に奉納し、唐風茶会を開いて参拝者らにふるまった。

中国茶や歴史の研究者、地元の社寺関係者らで2020年に結成した「日本最古のお茶伝承プロジェクト」が企画した。今年5月に、比叡山延暦寺の開祖最澄が唐から持ち帰った茶の種を植えたとされる「日吉茶園」や近隣の里坊に植わる茶の木から約1・6キロの葉を収穫。唐代の製茶法で再現した。

この日は日吉大社境内で、プロジェクト発起人の堀井美香さん（56）＝石山寺2丁目＝が、少量の塩を加えて煮出す当時の喫茶法で参加者に餅茶を披露した。参加者は「香りがいい」「塩味がまるやか」などと感想を口にした。

境内の別の場所では、茶摘みから製茶までの過程を紹介する写真パネルや、唐代に使用されていた茶具のレプリカなどを展示。堀井さんは「喜んでもらえてよかった。今後は茶の歴史を整理して勉強会を開いたり、お茶に親しむ場をつくったりして坂本の魅力を発信したい」と話した。



瞻仰尊顔

瞻仰尊顔(せんこうそんげん)：法華経の一節。お写真・文 福田徳衍 人柄を敬い慕い仰ぐこと

「あとみよ そわか」
お経の文言ではない。明治の文学者で第一回文化勲章の幸田露伴が口癖のおまじないだった。「もういいと思ってても、もう一度、呪文を唱えて見直しなさい」
露伴の娘の幸田文さんが14才で雑巾掛けやはたき、箒の扱い方など掃除の稽古をつけられたと『父 こんな(新潮文庫)』に記している。
大のつく露伴ファンだった私の父は、寺の本堂の雑巾掛けからまるごと本の記述通りに仕込みたかったらしい。
「バケツの水は6分目、雑巾をゆすぐにはまず水を包むようにして」
「バケツのふちに沿って絞った手を拭う」
が、生半可なやんちゃではなかった私だから、万事半分は聞いていない。しかし、弟子は跡取り息子の私しか居ないから、本堂の濡れ縁の雑巾掛けするたびに「あとみよ そわか」と気合いを掛けられた。
掃除機では部屋、出入り口のカマチの隅々まで掃除は行き届かない。いまになっても拙宅の雑巾掛けは私

「あとみよ そわか」

の役目になっている(家族は眉をひそめている...)。父の仕込みが身に染み込んでいるらしい。
障子にはたきを掛ける、箒ではいたホコリを左手でほとほと叩くなどの力加減に年寄りはやらかしかった。露伴が娘の前でやって見せたはたき遣いや雑巾がけは歌舞伎の所作事を見ているような見事さだと記述している。が、きょうび、家庭からはたきや箒は姿を消したとみえる。
「あとみよ そわか」はむしろ新聞社勤めのころ、ひと仕事終えたあとに念仏のように思い返していた。主に『週刊朝日』に携わっていたが、締め切りを過ぎ、出稿、印刷、製本され、発売直後に読者や関係者から誤りの指摘や抗議を受けると、思わず首をすくめ口ずさむ。
創刊101年目を迎えたその週刊誌も今月、休刊する。ほんのちよつとだが関わった18年間の反省を込めて。写真は1980年代、東塔大書院入り口にそびえていた老杉だ。今では、大樹の切り株も残っていない。

俳壇・歌壇

俳壇

早まると聞く
——茨城・ひまわり
——早朝に比叡の峰より見下ろせば光り輝く琵琶湖の湖面
——滋賀・中井和代
——青もみじまみえし比叡水筒の音をリズムに足取り軽く
——滋賀・恵弘
——先人の植えたる桜満開に御詠歌唱える花まつり
——埼玉・吉敷光代(皆さまからのご投句お待ちしております。文字は楷書ではつきり書いていただかないと掲載できません)

俳壇
・灌仏の乾く間のなき一日かな
——大分・廣瀬邦照
・旧節句までと重ねて兜出し
——山形・後藤窪台子
・三千号記す賞状卒業す
——滋賀・山村修三
・検定日さくら満開兆し佳し
——滋賀・堀井千恵子
・待ち焦がれ根本中堂薫風
——滋賀・八里舟月

歌壇

しごと降る雨にも
桜は王道が退院の日は

国宝殿 「比叡山に龍が舞う」奉納記念展覧会 4月24日(月)～5月14日(日)まで開催



龍を画題に活動が続け、龍が舞う実行委員会(水墨画家塩谷榮一氏(國松善次実行委員長)の奉納記念展覧会「比叡山に龍が舞う」が、比叡山り比叡山国宝殿で始まった。
これは、塩谷氏がコロナ禍の3年間で描き上げた龍の絵画作品を約30点あまり展覧するもので、同時に4尺にもなる「一隅を照らす三体の龍」と題した作品が延暦寺に奉納された。
「三」は仏教

平和へのメッセージ「夢がかなう」
龍を画題に活動が続け、龍が舞う実行委員会(水墨画家塩谷榮一氏(國松善次実行委員長)の奉納記念展覧会「比叡山に龍が舞う」が、比叡山り比叡山国宝殿で始まった。
これは、塩谷氏がコロナ禍の3年間で描き上げた龍の絵画作品を約30点あまり展覧するもので、同時に4尺にもなる「一隅を照らす三体の龍」と題した作品が延暦寺に奉納された。
「三」は仏教

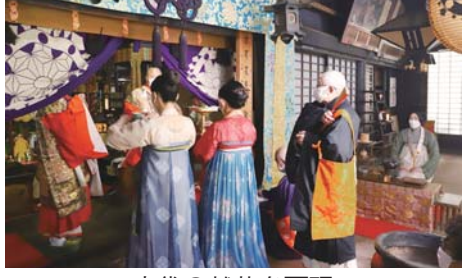
元三大師堂

慈恵大師御影供を厳修 春の横川に声明響く



比叡の峰の中でも特に三大師堂(四季講堂)で静寂の地となる横川の元は、春の陽光で新緑の映

える4月18日、山田能裕探題大僧正を導師に、慈恵大師御影供が営まれた。
法要は、比叡山延暦寺「中興の祖」と称される第18世天台座主慈恵(元三)大師良源(912～985)への報恩と感謝の誠を捧げるもので、午前11時15分から勤められた。
法要では先ず信徒代表らが手ずから餅や果物などの供物をお供える伝供が行われ、その後延暦寺僧侶により約1時間をかけて、大師の生涯を讃える声明が独特の拍子と旋律で唱えられた。写真。



唐代の献茶を再現

法要中には「日本最古のお茶伝承プロジェクト」(発起人・堀井美香氏)により、山麓の里坊にて摘まれた茶葉を中国唐代の製法を用いて再現した「坂本餅茶」が奉納され、唐風の朝服に身を包んだ女性により大師へと献じられた。

Qイズ



下の二つの絵を見くらべて、五つのがいさをさがして下さい。
三名の方に記念品をお送りします。
【解答送り先】〒520-0116 大津市坂本本町4220 比叡山延暦寺内

「比叡山時報Qイズ係」
※令和5年5月31日締切りです。
ハガキに答えと時報に対するご意見・感想を必ず書いてお送り下さい。
当選者の発表は記念品の発送をもってかえさせていただきます。

「山田お座主さま」

私が仏教雑誌の「大法輪」に島根県に住み念仏三昧の生涯を送った下駄職人「妙好人 才市」の原稿を寄せたとき、たまたま狛下のお目に触れたらしくお葉書が届いた。

「お父さまを思い出しました」

とあった。一山住職だった父は念仏行者で、里坊の間で毎晩、短い口ウソク一本が燃えつきるまで約1000回前後念仏を唱えてからから就寝した。父が亡くなったときには納骨まで再三度、狛下は里坊に足を運ばれ懇ろに用立て戴いた。威に満ちあふれたお念仏の十念がこれほど有り難く聞こえたことは無かった。

「あなたは山から場所が変わったがお山の気持ちで日々をおつとめ下さる」

狛下に戴いた葉書の結びである。あれから半世紀近い時間が流れている。

地方最古刹である 拝者は終日山内での祭典を楽しんだ。

また高橋美清師(群馬 教区・岩手県二戸 野宏紹住職)による「一隅を照らす」と題した法話も執り行われ(II 写真下)、そのなかで高橋師は、「それぞれの場所でも心も体も健康に明るく過ごしてほしい。好きなこと、得意なことを頑張ることで、それが誰かの力になる」と訴えた。

一方今般の大祭では、宗祖が服された喫茶を楽しむ 日吉大社で坂本餅茶披露

宗祖が服された喫茶を楽しむ 日吉大社で坂本餅茶披露

日本最古のお茶伝承プロジェクト

「日本最古のお茶伝承プロジェクト」(発起人 堀井美香氏)が、10月



「浄校生徒による」の演奏等多彩が行われ、境内に約200名の参

俳壇

- ・伝道師に辞令や秋の宇佐神宮
- ・大分・廣瀬邦照 住職の諷誦朗々と秋彼岸
- ・滋賀・山村修三 鱗雲村にコンビ二 無いくらし
- ・滋賀・山本綾子 木枯らしやざわめく 木の景世の予言
- ・滋賀・八里舟月

歌壇

- ・苦手なる 栗の殻むき夫頼み 炊き立てご飯 まあまあの出来
- ・茨城・恵子 退院の夫と 名月眺めおり
- ・孫の受験は 近まりてきし 茨城・ひまわり
- ・皆さまからのご投句 お待ちしております



本餅茶披露は唐風茶宴を主催した。同プロジェクトは、八十八夜の暦時に日本最古の茶園「日吉茶園」を始め、里坊内部や坂本地域に自生する茶の木から新芽を摘み、中国唐代の製茶方法そのままに直径3cmほどの「坂本餅茶」を作製。完成した餅茶は我が国に茶を伝えた伝教大師の御廟、また同日に執り行われた煎茶道黄檗売茶流(中澤孝典家元)の献茶祭の際に日吉大社西本宮に奉納された。

午後1時から開催された唐風茶宴では、当時の方法で淹れられた餅茶が唐風の朝服をまとったプロジェクト員により配膳され、訪れた人々は1200年前



餅茶は馬淵宮司を始め同社の神官らに献上された



この経本は「基本読誦用」姉妹本で「総仮名付き」の「聖典」所収の妙法蓮華し、現代仮名遣を用要に活用出来るようにした

法華経

読みやすい意味が解る お経(主)

訓読 妙法蓮華経

A5判 八〇〇頁

定價 上製本 普及本

仏書林 芝金

京都市中京区 電話〇七 振替〇〇〇

天台宗務庁 総本山延暦寺御用達

お珠数専門の老舗

小野珠数店



八十八夜茶摘み&唐代「坂本餅茶」づくりイベント

開催のお知らせ 2024年5月1日(水)

茶の新芽が生き生きと伸びる五月、伝教大師最澄さまが唐より持ち帰られた茶の種子を起源とする茶樹が今も伝えられる日吉茶園にて、八十八夜に開催される「茶摘祭」(日吉大社神事)に合わせて、坂本地区の茶樹から茶摘みをし、その茶葉を中国唐代の製茶方法でお茶をつくるイベントのご案内です。完成した「坂本餅茶」は、今年も延暦寺および日吉大社に奉納させていただきます。また、10月26日(予定)日吉大社にてお披露目の茶会を開催いたします。広く企画の趣旨にご賛同くださる方々に、ご参加いただければ幸いです。

「日本最古のお茶伝承プロジェクト」は、2021年より茶樹資源の保存と文化的活用を目的に、坂本地区の茶樹の分布や日吉茶園の歴史的な資料を調査してまいりました。2022年に「坂本餅茶」の復元、延暦寺および日吉大社への奉納、第1回・唐風茶会とパネル展の開催を実現し、今年は3回目の開催となります。

茶摘みイベント詳細

- 【開催日】 2024年5月1日(水) (悪天候中止)
【集合】 京阪電鉄・坂本比叡山口広場 9時15分
【タイムスケジュール】
9:30~10:30 茶摘祭に参列 @日吉茶園
10:30~12:00 坂本地区にて茶摘み
12:00~13:30 休憩
13:30~15:30 「坂本餅茶」づくり
@日吉大社(坂本5丁目1-1)
【参加費】 無料 *日吉大社入苑協賛金¥500別途
【募集】 20名



■ご協力:(敬称略)

延暦寺里坊、日吉大社、煎茶道黄檗売茶流、
うえだ土産物店、日吉そば、信楽町茶業協会、

再現した「坂本餅茶」



【参加申し込み】

お申込者の氏名、参加人数、お電話番号(緊急の連絡用)をご記入の上 eizansakamotocha@gmail.com (日本最古のお茶伝承プロジェクト事務局) までお申込みください。

下記QRコード読み込みで簡単申込



申込期限:2024年4月24日
*定員になり次第締め切り
イベント運営:日本最古のお茶伝承プロジェクト事務局

滋賀県茶業指導所 他

へいちや 日吉大社献茶祭 & 「坂本餅茶」 お披露目会

琵琶湖の南西岸に位置する滋賀県大津市坂本は、世界文化遺産・比叡山延暦寺の里坊があるまち。そして延暦寺の守護神である、日吉大社の門前町でもあり、穴太衆積みの石垣が美しいまちの景観と、そこにお茶の木がたくさんあることに気づきます。延暦寺を創建された伝教大師・最澄様が、約1200年前に中国から伝えた茶の種子を植えたとされる「日吉茶園」には、今なお茶の若葉が茂り大切に守られています。

私たちのプロジェクトでは、坂本の地に根付く茶文化を後世に継承し、貴重な茶樹資源を守ることを目的に活動をしています。5月の八十八夜の日には、日吉茶園や坂本の茶の木から若葉を摘み、茶が坂本に伝来した当時の中国で主流のお茶（餅茶）を作っています。来る日吉大社献茶祭において、その「坂本餅茶」を皆様にお披露目をしたく、ご案内を申し上げます。多くの方々に、坂本のお茶を味わっていただければ幸いです。

(日本最古のお茶伝承プロジェクト・発起人 堀井美香)

【開催日】 2023年10月21日(土) 【時間】 11:00～16:00 ごろ

【場所】 日吉大社 大津市坂本五丁目1-1

入苑協賛料¥500を西受付（お車の方は東受付）にてお納めください。

献茶祭 ～プログラム～

献茶式

西本宮

煎茶道黄檗売茶流家元による献茶が西本宮拝殿にて執り行われます。ご希望者は参列可能ですので10:45までに参集殿前にお越しください。

「坂本餅茶」も神前にお供えいたします。

10:30～ 受付（参集所前）

11:00～12:00 献茶式（西本宮）

唐風茶宴_坂本餅茶披露_

白山宮拝殿

13:00～16:00

（プロジェクト協賛料¥1000・予約不要、当日受付）

重要文化財の白山宮拝殿にて、坂本餅茶を煎じます。お茶が坂本に伝来した当時の風情をお楽しみください。

（お茶とお菓子、各回20名）○第1回：13:00～

○第2回：14:00～ ○第3回：15:00～

黄檗売茶流煎茶席

日吉会館

12:00～16:00 （茶席無料・予約不要）

煎茶道の美しいお手前で玉露とお菓子をお楽しみください。正座をしない立礼のスタイルですので、膝や脚を気にすることなく茶席をお楽しみいただけます。

坂本餅茶パネル展

日吉会館

12:00～16:00

（無料・お好きな時間にご観覧ください）

日吉会館にて、茶摘みと「坂本餅茶」製茶の様子をパネルにして展示いたします。



中国唐代のお茶を再現した「坂本餅茶」

比叡山延暦寺及び、日吉大社へ奉納いたしました！



日吉大社境内のご案内



WEB サイトはこちらから ⇒



* 唐風茶宴と煎茶席にご参加の方は
各会場へ直接お越しください。

献茶式受付

日吉大社 大津市坂本五丁目1-1
入苑協賛料¥500 を西受付(お車の方は
東受付)にてお納めください。

「献茶祭」は煎茶道黄檗売茶流が主催し、「坂本餅茶」お披露目会は、日吉大社及び黄檗売茶流のご協力により「日本最古のお茶伝承プロジェクト」が企画いたしました。唐風茶宴は、NPO 法人中国茶文化協会後援(会員カード提示で、唐風茶宴へのご優待あり)、中国茶サロン・留香茶心の協賛により実施いたします。

お問い合わせは info@liuxiang-chaxin.com / ☎ 080-2402-0531 (堀井) まで!

「日本最古のお茶伝承プロジェクト」活動のあゆみ

- 2020年12月 チーム結成、調査開始
- 2021年8月 プロジェクト発足、名称の決定
- 2022年5月 八十八夜茶摘み
& 「坂本餅茶」製茶イベント開催
- 2022年6月 比叡山延暦寺へ「坂本餅茶」奉納
- 2022年7月 活動報告会の開催
- 2022年10月 日吉大社へ奉納、献茶祭にて披露
- 2023年4月 四季講堂・慈恵大師御影供にて献茶
- 2023年5月 八十八夜茶摘み
& 「坂本餅茶」製茶イベント開催
- 2023年5月 比叡山延暦寺へ「坂本餅茶」奉納

_____プロジェクトの活動内容_____

- A) 茶樹資源の保護
 - ・里坊、坂本エリアの茶樹調査と里坊への協力要請、保存活動、チャノキ・マップ作成
 - ・比叡山山麓の茶樹(放棄茶園を含む)の調査
 - ・遺伝子的調査の整理と検討
- B) 茶文化伝承と地域活性への貢献
 - ・日吉茶園、比叡山での飲茶文化等、歴史資料の整理
 - ・茶園コミュニティー
茶樹の管理や茶文化を体験できる場所をつくり、広く一般に参加できる地域の活動として根ざすことを目標にします。
 - ・茶文化講
坂本の魅力を再発掘できるような、講座や学びの会を設け、広く一般の方や学生に向けて発信していきます。

【お問い合わせ】

日本最古のお茶伝承プロジェクト
_____事務局&留香茶心_____
info@liuxiang-chaxin.com



八十八夜茶摘み&唐代「坂本餅茶」づくりイベント

開催のお知らせ 2023年5月2日(火)

茶の新芽が生き生きと伸びる五月、日本最古の茶園として守られてきました日吉茶園にて、八十八夜に開催される「茶摘祭」(日吉大社神事)に合わせて、坂本地区の茶樹から茶摘みをし、その茶葉を中国唐代の製茶方法でお茶をつくるイベントのご案内です。完成した「坂本餅茶」は、今年も延暦寺および日吉大社に奉納させていただきます。また、10月21日(予定)日吉大社にてお披露目の茶会を開催いたします。広く企画の趣旨にご賛同くださる方々に、ご参加いただければ幸いです。

「日本最古のお茶伝承プロジェクト」は、2021年より茶樹資源の保存と文化的活用を目的に、坂本地区の茶樹の分布や日吉茶園の歴史的な資料を調査してまいりました。2022年には、「坂本餅茶」の復元、延暦寺および日吉大社への奉納、第1回・唐風茶会とパネル展の開催を実現いたしました。

茶摘みイベント詳細

- 【開催日】 2023年5月2日(火) (悪天候中止)
【集合】 京阪電鉄・坂本比叡山口広場 9時15分
【タイムスケジュール】
9:30~10:30 茶摘祭に参加 @日吉茶園
10:30~12:00 坂本地区にて茶摘み
12:00~13:30 休憩
13:30~15:30 唐代「餅茶」づくり
@龍禅院(坂本3丁目21-32)
【参加費】 無料
【募集】 20名



ご協力:(敬称略)

延暦寺里坊、日吉大社、煎茶道黄檗売茶流、
うえだ土産物店、日吉そば、信楽町茶業協会 他

再現した「坂本餅茶」



【参加申し込み】日本最古のお茶伝承プロジェクト事務局(LiuXiang茶心・堀井)へメールにてお申込者の氏名、参加人数、お電話番号(緊急の連絡用)を記入の上 info@liuxiang-chaxin.com までお申込みください。

下記QRコード読み込みで簡単申込

申込期限:2023年4月30日

*定員になり次第締め切り

イベント運営:日本最古のお茶伝承プロジェクト事務局



へいちゃ 日吉大社献茶祭 & 「坂本餅茶」 お披露目会

琵琶湖の南西岸に位置する滋賀県大津市坂本は、世界文化遺産・比叡山延暦寺の里坊があるまち。そして延暦寺の守護神である、日吉大社の門前町でもあります。古代からの風習が日々の生活に今なお息づく比叡山坂本を訪れると、穴太衆積みの石垣が美しいまちの景観と、そこにお茶の木がたくさんあることに気づきます。延暦寺を創建された伝教大師・最澄様が、約1200年前に中国から伝えた茶の種子を植えたと言われる「日吉茶園」には、今なお茶の若葉が茂り大切に守られています。

私たちのプロジェクトでは、坂本の地に根付く茶文化を後世に継承し、貴重な茶樹資源を守ることを目的に活動をしています。本年5月の八十八夜の日には、日吉茶園や坂本の茶の木から若葉を摘み、茶が坂本に伝来した当時の中国で主流のお茶（餅茶）を作り上げました。来る日吉大社献茶祭において、その「坂本餅茶」を皆様にお披露目をしたく、ご案内を申し上げます。多くの方々に、坂本のお茶を味わっていただければ幸いです。

(日本最古のお茶伝承プロジェクト・発起人 堀井美香)

【開催日】 2022年10月22日(土) 【時間】 11:00～16:00 ごろ

【場所】 日吉大社 大津市坂本五丁目 1-1

入苑料¥300を西受付（お車の方は東受付）にてお納めください。

献茶祭 ～プログラム～

献茶式

西本宮

煎茶道黄檗売茶流家元による献茶が西本宮拝殿にて執り行われます。ご希望者は参列可能ですので10:45までに参集殿前にお越しください。

「坂本餅茶」も神前にお供えいたします。

10:30～ 受付（参集殿前）

11:00～12:00 献茶式（西本宮）

坂本餅茶パネル展と呈茶

参集殿

12:00～16:00

（無料・好きな時間にご観覧ください）

参集殿にて、茶摘みと「坂本餅茶」製茶の様子をパネルにして展示いたします。合わせて、中国唐代の宮殿にて使用の貴重な銀器茶具の再現品なども展示します。

坂本餅茶をご試飲いただけます（中国茶とお菓子付）。

予約は不要です。ご希望者に随時お出しします。

黄檗売茶流煎茶席

日吉会館

12:00～16:00（茶席無料・予約不要）

美しいお手前で玉露とお菓子をお楽しみください。

唐風茶会

白山宮拝殿

12:45～16:15（茶席は事前予約のみ・限定30名）

重要文化財の白山宮拝殿にて、坂本餅茶を煎じます。お茶が坂本に伝来した当時の風情をお楽しみください。

お問い合わせは 中国茶サロン・留香茶心

080-2402-0531（堀井）まで



中国唐代宮廷茶具
（銀鍍金茶碾）

*写真は唐皇帝からの贈り物展 図録より

中国唐代のお茶を再現した「坂本餅茶」

へいちゃ
比叡山延暦寺へご奉納いたしました！



日吉大社境内のご案内



WEB サイトはこちらから →

西本宮エリア
西本宮 宇佐宮 白山宮 山王鳥居 西本宮楼門

大宮橋エリア
走井橋 大宮橋

白山宮拝殿 唐風茶会

黄檗売茶流 煎茶席

献茶式

「坂本餅茶」 パネル展&呈茶

献茶式&茶会受付

日吉大社 大津市坂本五丁目1-1
入苑料¥300を西受付(お車の方は東受付)にてお納めください。

「献茶祭」は煎茶道黄檗売茶流が主催し、「坂本餅茶」お披露目会は、日吉大社及び黄檗売茶流のご協力により「日本最古のお茶伝承プロジェクト」が企画いたしました。唐風茶会及び呈茶は、中国茶サロン・留香茶心の協賛により実施いたします。お問い合わせは info@liuxiang-chaxin.com / ☎080-2402-0531 まで

「日本最古のお茶伝承プロジェクト」活動のあゆみ

- 2020年12月 チーム結成、調査開始
- 2021年8月 プロジェクト発足、名称の決定
- 2022年4月 滋賀県知事より活動のご公認
- 2022年5月 八十八夜茶摘み
& 「坂本餅茶」製茶イベント開催
- 2022年6月 比叡山延暦寺へ「坂本餅茶」奉納
- 2022年7月 活動報告会の開催
- 2022年10月 献茶祭への参加

B) 茶文化伝承と地域活性への貢献

- ・日吉茶園、比叡山での飲茶文化等、歴史資料の整理
- ・茶園コミュニティー
茶樹の管理や茶文化を体験できる場所をつくり、広く一般に参加できる地域の活動として根ざすことを目標にします。
- ・茶文化講
坂本の魅力を再発掘できるような、講座や学びの会を設け、広く一般の方や学生に向けて発信していきます。

プロジェクトの活動内容

A) 茶樹資源の保護

- ・里坊、坂本エリアの茶樹調査と里坊への協力要請、保存活動、チャノキ・マップ作成
- ・比叡山山麓の茶樹(放棄茶園を含む)の調査
- ・遺伝子的調査の整理と検討

【お問い合わせ】

日本最古のお茶伝承プロジェクト
____事務局&留香茶心____
info@liuxiang-chaxin.com



“坂本茶”復活に向けて

八十八夜茶摘み&唐代「餅茶」づくりイベント

開催のお知らせ 2022年5月2日(月)

大僧都永忠様や伝教大師最澄様により唐代の中国より、9世紀初頭（平安時代）の日本に茶とその喫茶法が伝えられ、比叡山麓で茶樹の栽培が始められ、坂本地区には今なお、多くの茶樹が残っています。

これらの茶樹資源の保存と文化的活用を目的に、2021年より「日本最古のお茶伝承プロジェクト」を立ち上げ、坂本地区の茶樹の分布や、日吉茶園の歴史的な資料を調査してまいりました。

茶の新芽が生き生きと伸びる五月、日本最古の茶園として守られてきました日吉茶園にて、八十八夜に開催される「茶摘祭」(日吉大社神事)に合わせて、坂本地区の茶樹から茶摘みをし、その茶葉を中国唐代の製茶方法でお茶をつくるイベントを企画いたしました。

広く企画の趣旨にご賛同くださる方々に、ご参加いただければ幸いです。

茶摘みイベント詳細

- 【開催日】 2022年5月2日(月) (悪天候中止)
【集合】 京阪電鉄・坂本比叡山口広場 9時15分
【タイムスケジュール】
9:30 茶摘祭に参加 @日吉茶園
10:00~12:00 坂本地区を散策しながら茶摘み
12:00~13:30 休憩
13:30~15:00 唐代「餅茶」づくり
@龍禅院 (坂本3丁目21-32)

【参加費】 無料

【定員】 20名



ご協力：延暦寺里坊、日吉大社、煎茶道黄檗売茶流、うえだ土産物店、近江の茶研究会、湯浅薫様（茶文化研究家）他

唐代の「餅茶」を再現



【参加申し込み】 日本最古のお茶伝承プロジェクト事務局 (LiuXiang 茶心・堀井) へメールにてお申込者の氏名、参加人数、お電話番号（緊急の連絡用）を記入の上 info@liuxiang-chaxin.com までお申込みください。

下記 QR コード読み込みで簡単申込

申込期限：2022年4月30日

*定員になり次第締め切り

イベント運営：日本最古のお茶伝承プロジェクト事務局

